

平成31年

目黒区教育委員会

第1回定例会会議録

(平成31年1月8日開催)

第1回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成31年1月8日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	後藤 幸子
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	笹尾 敦夫

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校統合推進課長	和田 信之
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	鹿戸 健太
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	生涯学習課長	馬場 和昭
	八雲中央図書館長	増田 武

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- | | | |
|-------|------|---|
| 日程第 1 | 報告事項 | 平成 3 1 年度組織改正（第 1 次）及び職員数内
内示について |
| 日程第 2 | 報告事項 | 平成 3 1 年度目黒区一般会計当初予算原案につ
いて |
| 日程第 3 | 報告事項 | 目黒区公立学校長職務代理者の指定について |
| 日程第 4 | 報告事項 | 平成 3 0 年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども
会議の実施結果について |
| 日程第 5 | 報告事項 | 平成 3 0 年度小・中学校卒業式祝辞について |

(午前9時30分開会)

○教育長 第1回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員は櫻井委員です。欠席職員はございません。署名委員は笹尾委員です。

それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成31年度組織改正(第1次)及び職員数内内示について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等がございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成31年度目黒区一般会計当初予算原案について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等がございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 目黒区公立学校長職務代理者の指定について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等がございますか。
○教育長 保護者への対応はどうなっていますか。
○説明員 校長から保護者に通知をもって周知をするということです。
○教育長 その他ご質問等がございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第4を議題とします。

(日程第4 平成30年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございますか。
- 委員 私は、第七中学校区と大鳥中学校区に伺いました。中学生がファシリテーションするという難しい中で、何とか小学生の意見を引き出そうと頑張っている様子も見受けられ、今後も継続してほしいと思います。
- まず、課題にあったように、大鳥中学校区は人数も多く、校内の移動に10分以上の時間がかかっていました。全体会の初めに集まる意味があるのでしょうか。最初から分科会に分け、教室に入ってもらって、放送でこういった趣旨でやります、終わったら全体会をしますという形でもいいと思います。時間の短縮というところに努めていただきたいと思います。話し合いの時間が短い中で、10分も削られてしまって、中学生にとっては難しかったかなというところもありました。
- あと、小学生に名札みたいなものがあつた方が、中学生が声をかけるときに良いと思います。
- そして、大鳥中学校区の副主題、「いじめといじりのちがひ」ですが、どこの分科会も結局、いじめはこうです、いじりはこうですという結論になりがちでした。最後に田道小学校の学校長が、いじめもいじりもよくないよ、という方向性を導く発言をしたので、よかったと思ったのですが、いじりはいいのではないかと、という意見がたくさん出ていたのは違和感がありました。
- いじりも、発展したらいじめになるよという、結論を出しているところもあつたのですけれども、いじりはいいのではないかと、いうところもあつたので、副主題の設定をもう少し考えてもらったほうが良いと思いました。それは、ほかの教員の皆様にも意見を聞いていただきたいと思います。
- あと、ファシリテーション研修ですが、担当教員1人だけがファシリテーション研修を受けた。でも1人では、なかなかファシリテーションする中学生に教えるのは難しいと思います。ですので、もう何人かがファシリテーション研修を受けられたら、より子どもたちのサポートができると思いますので、次年度に少し考えていただきたいと思います。
- 説明員 まず、初めから分科会等に分けて、放送を使ったらどうかというご意見ですが、これは、私どもも実際に考えたところでございます。ただ、この学年以外の学年が授業をしていることで放送

ができない。そういう中で、今、ICT機器も進んでいるので、プレゼン等を使いながら、黒板に映像を流してやることはできないか、共通の映像を流してやることはできるのではないか。そうすることによって、分科会からの移動、全体会から分科会への移動を省くことができる。大鳥中学校は実際には14分かかっていますので、この14分を話し合い活動に充てることができれば、より広がったり深まったりする活動が考えられるということで、これについては、また次年度に向けての検討事項にさせていただきたいと思います。

それから、名札をつけたほうが良いということ、これもご指摘ごもつとも、相手の名前を挙げて直接話をするほうが会は和みますので、こちらも検討事項にさせていただきたいと思います。

それから、いじりはいけないんだと子ども大人が押しつけてしまうことの難しさというのはあると思います。どのような副主題を設定するかによって、子どもたちが自発的に、いじりはいけないんだという考えが深まっていけるかどうか、副主題の設定というところで、今後、検討課題にさせていただきたいと思っております。

いずれにしても、話し合いが進む中で、途中で大人が介入をして、そうではないよねと言ってしまうと、自発的な発言が一旦中断してしまう可能性がありますので、そういったおそれも考慮しながら考えていかなければいけないと思っております。

ファシリテーション研修につきましては、今回1人のみの参加でしたが、参加した先生もさらに研修を受講したいという意見がありましたので、今後回数を増やすのかということも含めて検討してまいりたいと思っております。

○委員

いじめといじりの違いについてですけれども、もちろん子どもたちが自発的に、いじりもよくないということになればいいですけども、この設定だと、いじめといじりの違い、いじめはこうです、いじりはこうです、という結論になったグループが多かったのです。いじめはよくない、いじりは本人と周りがよかったら良いという意見が出たところもあったので、これをそのまま学校に持ち帰って、その意見を広めるというのは、危険だと思います。

いじめといじりの違い、結論ではなくて、その後のことを考えることができる副主題をつけていただくとか、自発的に発言してもらって、両方よくないよ、いじりもいじめになる可能性がある

よというところまで持っていけるといいのですけれども、そこができていなかったグループがあったのが気になりました。副主題については今後も検討してください。

○説明員 ファシリテートする中学生が、今ご指摘いただいたこと、いじりについても、いいものではないというようなことをもとにファシリテートしていれば、最終的に聞き返すことによって、子どもたちから引き出すことはできると思うのですけれども、その点は指導者がどのような心構えで司会をさせるかということに尽きると思いますので、この点も改めて共有の課題として、次年度に向けての反省事項、引き継ぎ事項にしたいと思います。

○教育長 ファシリテーターにいじめといじりの違いを最初から押しつけるとするのは、そのこと自体が問題だと思います。いじめはこうですよ、いじりはこうですよということを最初から中学生が言ってしまうと、まとまらない話になります。今回の副主題の中で1番の「考えよう言葉と行動」、2番の「コミュニケーションを大切にしよう」、6番の「個性について考える」、それから9番の「いじめといじりのちがいは、各論に入り過ぎたがゆえに、小さいところで話がまとまり過ぎたと思います。そのほかのところ「あなたは、だいじょうぶ？」とか、「人の悪口」とか、「いじめのない学校をめざして」というように、大きい副題をつけています。小さい副題の場合は発展が乏しいと思います。この副題はどう決めているのでしょうか。

○説明員 この副題は、各学校の担当者、中心になるのは参加する小学校、中学校の担当の教員かと思っておりますけれども、その教員がイニシアチブをとって、前年度の副主題等を含めながら考えていくというのが主です。

○教育長 今、委員から意見をいただきましたので、その点については各関係者に周知をしていただきたいと思います。私も聞いていて、これはかなり危険な発言だなというのはありました。受け手がどう受けるかということも一つあると思います。話し合った経過が無駄にならないように、その点は検討していただきたいと思います。

○委員 最初のころは参加する生徒が少ないところと多いところと、校区によってばらつきがありましたが、対象学年全員が参加するところと2年続いたということはよかったと思います。

副主題については、意見があったように、本当に会をうまく進

めていくためにはとても大事なことだと思うので、よく検討して
いただきたいと思います。

私が気になったのは、教職員以外の参加者のところで、説明に
もあつたように、校区によってばらつきがあり、学校評議員やP
T Aの方がいないところは、参加者が少ないと思います。関心が
ないのか、あるいは日程が合わなかったのか、いろいろとあるの
でしょうけれども、その辺をフォローされたほうがいいと思いま
す。

P T A、学校評議員というのは常に学校に関わっている立場の
方なので、その方が全くゼロというのは心配だという気がしたの
で、フォローをお願いしたいと思います。

○説明員 ご指摘のとおり、平成28年度に地域の方、保護者にもしっか
りと子どもたちの様子を見て、地域の支援をいただきながらいじ
め問題を解決していこうというところから、それまでは地域の方
の参観を控えていただくという方向でしたけれども、検討の結果、
問題ないだろうということで、検証もしながら今回行っておりま
す。今いただいたご意見をもとに、各校長先生方へ、多くの方に
可能な限り参観して、子どもたちの真剣に意見、交流する様子
を見ていただきたいということを伝えていきたいと思います。

○教育長 地域の方の参加の基本的な考え方をに入れていただきたいと思
います。いじめ問題を解決していくには、地域の方々の支援がない
と解決していかない問題だから会に参加していただくというこ
とを、1の趣旨のところを追記していただきたいと思います。これ
は要望です。

○教育長 その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第5を議題とします。

(日程第5 平成30年度小・中学校卒業式祝辞について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございますか。

○教育長 今日は1回目の協議ということですので、フリーで協議をして
いただければと思います。まずテーマというところが最初と思
います。

○委員 テーマですけれども、小学校でいくと、個性や能力を生かし粘

り強く取り組むというのは割とわかりやすいと思うのですが、他者と協働するというのは、テーマとしてどうかなと感じたところではあります。

個性や能力を生かすとか粘り強く取り組むというのは、どちらも中学に行ったら頑張らなさいというときのポイントにはなりやすいと思って、私は個性や能力を生かすか、粘り強く取り組むというほうが、小学校の卒業生にはいいのではないかと思います。

中学校はこの3つともありますけれども、他者と協働し社会に貢献するというと、押しつけがましいという気もしないではないので、将来の道を開くとか、自分なりに試行錯誤して取り組みなさいとか、そういうほうが伝わりやすいと思います。

それから、テーマについてはノーベル賞は小学校でも中学校でも入れられるとは思いますが、あとのテーマはなかなか難しいと思いました。

例えば、個人を取り上げると、池江璃花子さんとか大谷翔平さんとか、3月まである程度時間もあるから、この間にどういうことが起きるのかというのもあるし、テニスの錦織さん、大坂なおみさんもいるのではないかなとか意見が出てくると思います。だから、個人はなかなか難しいのかなと思うところではあります。

○委員

この主題という形で例を挙げていただいたのは本当にありがたいことで、その中から選びたいと思います。ただ、ハニカム構造、ノーベル賞、それからシティランの中のどれが、小学生が一番興味を持つのか考えてみたのですが、ノーベル賞だと思います。

あと中学校は、タイミング的にいうと2020年のオリンピック・パラリンピックだと思います。

それから、小・中共通の中で一番インパクトがありそうなのが、新国立競技場がいいかなと思います。木材を多く使うということでのいい面が中心になっていますので。

3つ選ぶとすると、小学校のノーベル賞、それから中学校のオリンピック・パラリンピック、それから小・中共通のところでは新国立競技場を選びたいと思っています。

○委員

まず、小学校については、小学生がはっと思って聞いてくれるような内容がいいかなと思って、ハニカム構造ってなんだろうと、興味・関心をもつのではないかなと思って聞いていました。

ノーベル賞に関しましては、どちらでも対応できるので、中学校に持って行って、深く知りたいという、今後、高校に上がるに

当たって、就職するに当たって、そういうところを追求していきましようというところで良いと思いました。

最後に個人に関しては、今後、何があるかわからないということがあり、難しいと思いました。

全体的に聞いてもらえる話の内容として、はっとするハニカム構造も悪くないし、昨年も高速鉄道がありました。インドの鉄道。昨年か一昨年あったと思いますけれども、これも悪くないと思います。

テレビコマーシャルで、シンガポールで鉄道をつくっています、みんなに会いたいけれども、海外で鉄道を敷くために頑張っていますと流れたりしているので、子どもたちは海外に目を転じるグローバルというところで、海外で日本の技術がこのように広がっているというところの持っていく方もいいと思います。

○教育長 1回目ですので、いろいろご意見を今いただきました。私も他の3人の委員と同じように、ノーベル医学・生理学賞は小学校か中学校で、いいテーマではないかと思っています。

その他のテーマについては、来週までにもう少し考えたいと思います。もう一度委員の方々に意見を聞きたいと思います。

○委員 先ほど委員の発言を聞いていて思ったのですが、昨年、小学校は折り紙でした。あれは読んでいても、映像が浮かぶというのがあったので、よかったと思います。

このハニカム構造というのは、確かにそういう面では映像が浮かぶかもしれない、書き方によっては。おもしろいかもしれないので、その辺は検討していただくといいかなと思います。

それから、ノーベル賞については中学校でも十分いけると思うんですけれども、確か「6つのC」ということを本庶先生がおっしゃっていると思います。あのCの中にはコンフィデンスだったりコンセントレーションだったり、中学生が英語的に興味を持てるものもあると思うので、その辺も検討していただけたらなと思います。

○教育長 ノーベル賞については同じ考えなので、次週、もう少し落としどころといいますか、主眼というか、その辺のところを膨らまして書いていただけますか。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時48分閉会)